

神石協働支援センターだより



2021年7月号
発行：神石協働支援センター

〒729-3511
神石郡神石高原町高光2117番地10
TEL 0847-87-0331
FAX 0847-87-0331
E-mail: j-kyoudou@sky.kagayakinet.ne.jp
ホームページ: https://jinseki-kyodo.com

現役農業経営者 集計結果

*回答数はグラフ右下または左上の【N=〇〇〇(%)】です。

調査票の配布・回収の状況

配布数	有効回収数	有効回収率
808件	209件 (農家156件)	25.9%

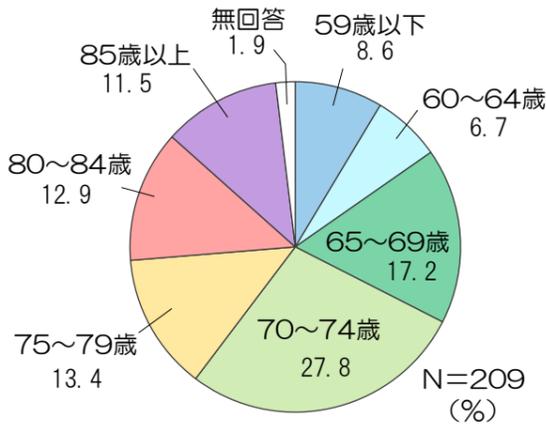
注：農家は、専業農家、兼業農家、専・兼業不詳(非農家と回答した人を除く回答者数)

【調査の目的】
高年齢化にともなう農地の維持が困難になる中で、地域の在り方について、若い人の意見も踏まえながら、現役農業経営者と農業後継者を対象としたアンケート調査を実施しました。

先月のセンター便りに続き、今月は令和2年12月に実施した農業に関するアンケート調査の結果を報告します。

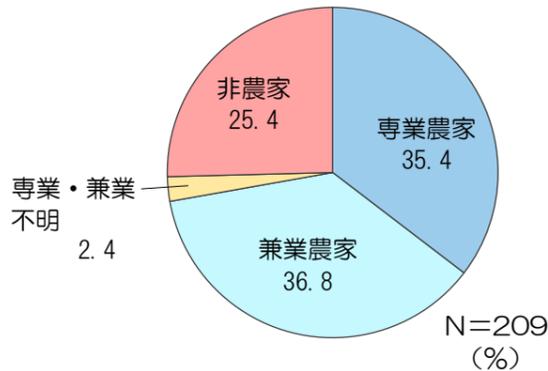
農業に関するアンケート調査の結果報告

回答者の年齢



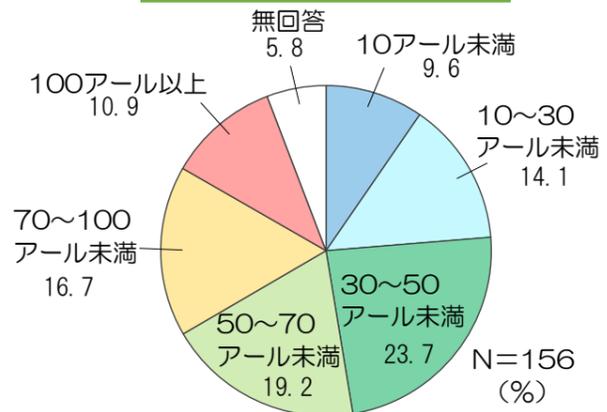
回答者の年齢は、64歳以下15.3%、65~74歳45.0%、75歳以上37.8%で、75歳以上が4割近くを占めている。

営農の状況



営農の状況は、専業35.4%、兼業36.8%、非農家25.4%である。

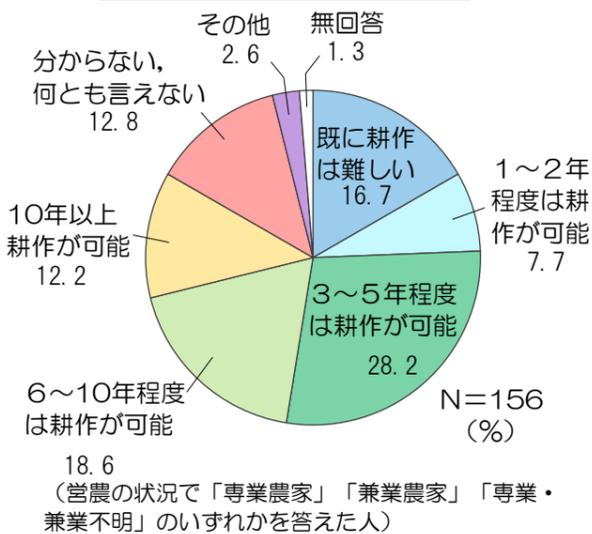
所有農地(水田)面積



(営農の状況で「専業農家」「兼業農家」「専業・兼業不明」のいずれかを答えた人)

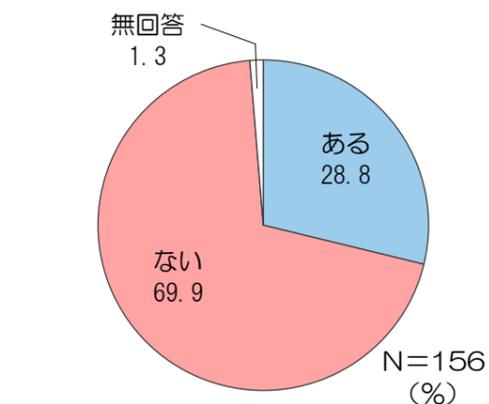
所有している農地(水田)面積は、30アール未満23.7%、30~50アール未満23.7%、50~100アール未満35.9%、100アール以上10.9%などとなっている。

今後耕作できる年数



所有している農地の「耕作の可能な年数が5年程度以下」の人の割合は約半数を占める。地域において耕作できる体制を早急に構築することが求められている。

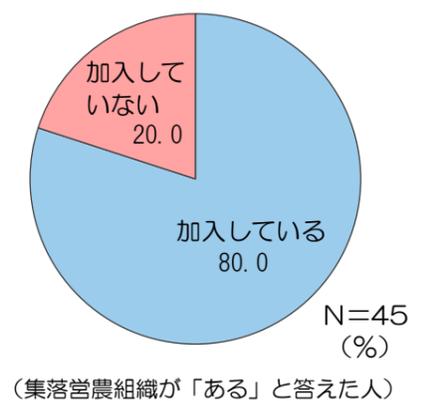
集落営農組織の有無



(営農の状況で「専業農家」「兼業農家」「専業・兼業不明」のいずれかを答えた人)

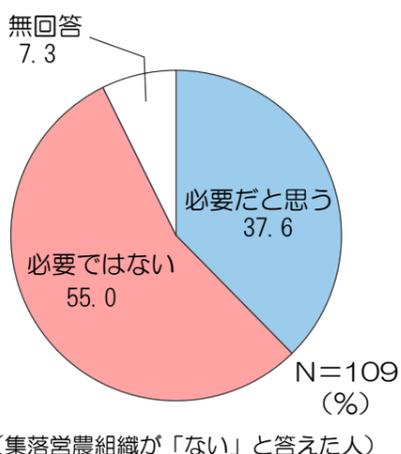
自分の集落に集落営農組織が「ある」と答えた人の割合は、牧80.8%、古川36.8%、相渡31.3%、草木24.0%、田頭14.3%、福永12.0%、高光4.2%となっている。

集落営農組織への加入状況



(集落営農組織が「ある」と答えた人)

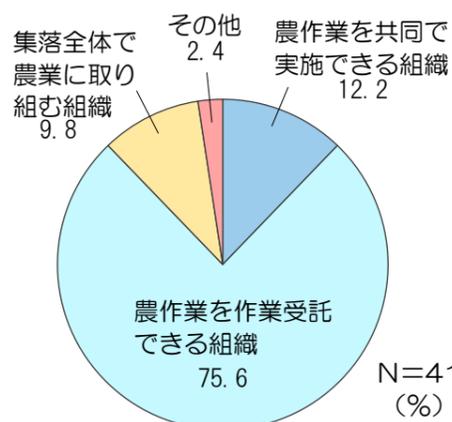
集落営農組織の必要性



(集落営農組織が「ない」と答えた人)

集落営農組織は「ない」と答えた人の当該組織の必要性について、「必要だと思う」と答えた人の割合は約4割である。

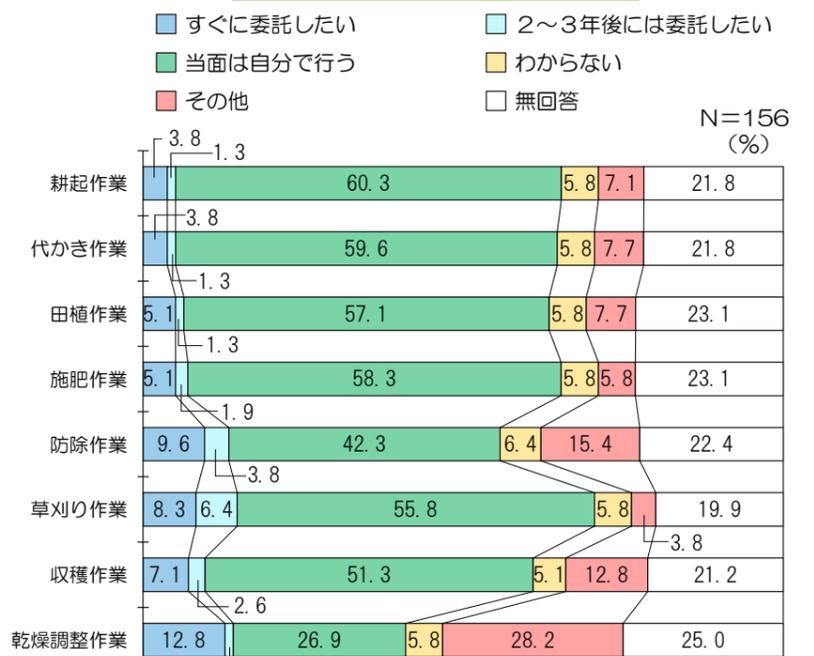
集落営農組織の役割



(集落営農組織が「必要だと思う」と答えた人)

集落営農組織が「必要だと思う」と答えた人の当該組織の形、役割については、「農作業を作業受託できる組織」と答えた人の割合が8割近くを占めており、農作業の受託のできる組織が強く望まれている。

農作業の委託意向

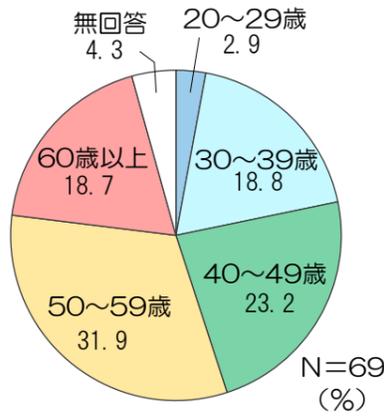


(営農の状況で「専業農家」「兼業農家」「専業・兼業不明」のいずれかを答えた人)

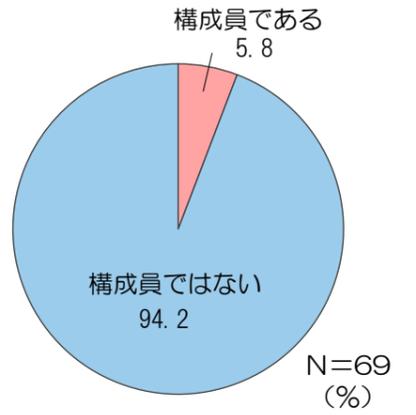
*回答数はグラフ右下または左上の【N=〇〇〇(%)】です。

現役農業経営者集計結果

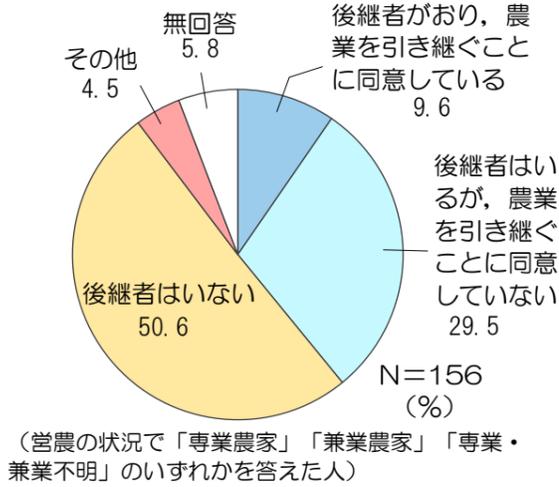
後継者の年齢



集落営農組織への加入状況(後継者)

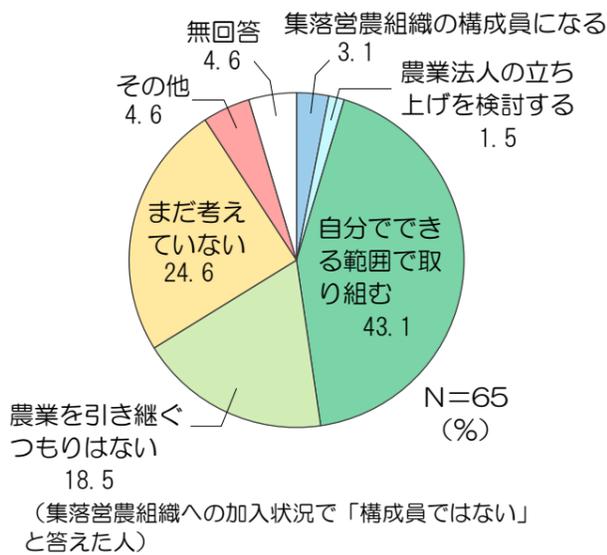


後継者の状況



「後継者がおり、農業を引き継ぐことに同意している」と答えた人の割合は約1割、「後継者はいるが、農業を引き継ぐことに同意していない」は約3割、「後継者はいない」は約5割である。農業引き継ぎに不同意の後継者の同意が得られる取り組みが必要である。

後継者の農業への従事意向



後継者の農作業の出役の可能性

農作業	できない (%)	会社が休みなど都合次第でできる (%)	いつでもできる (%)	無回答 (%)
耕起作業	46.4	30.4	20.3	2.9
代かき作業	46.4	30.4	20.3	2.9
田植作業	40.6	36.2	20.3	2.9
施肥作業	47.8	29.0	20.3	2.9
防除作業	46.4	30.4	20.3	2.9
草刈り作業	34.8	42.0	20.3	2.9
収穫作業	42.0	33.3	21.7	2.9
乾燥調整作業	55.1	20.3	21.7	2.9

人材バンク事業(仮称)の検討

課題と解決策の繋ぎ合わせ

センターの基本は地域の課題と解決策の繋ぎ合わせ。町道のアスファルト補修だけでなく、買い物や補助金申請などで困っている人はたくさんいらっしゃいます。解決策のひとつとして、住民の皆さんに参加していただく「出来る人・団体」の登録制度のような事業を検討しています。買い物の手伝いが出来る人、体力作業が出来る人、事務仕事やパソコンが得意な人など、さまざまな人や団体が自分の得意なことを生かして活躍してもらい、安心して暮らせるまちづくりにつなげたいと考えます。

令和3年度通常総会で、出席代議員から、「もっと、地域の人の意見を反映させて欲しい」と要望をいただきました。検討した結果、第2期まちづくり計画に入る

令和3年度通常総会
出席代議員から、「もっと、地域の人の意見を反映させて欲しい」と要望をいただきました。検討した結果、第2期まちづくり計画に入る

第3回幹事会報告 6月15日(火)

専門部会 構成団体見直し

意見や現状をより集約できる体制

にあたり生涯学習部会、福祉部会、まちづくり部会の構成団体の見直しを行う事に決定しました。

令和3年度 協働のまちづくり事業 審査結果

次の事業が採択されました。

福永自治振興会	防犯景観対策事業	265,000円
牧自治振興会	防犯景観対策事業	24,000円
帝釈峡スコラ高原クロスカントリ大会実行委員会	第26回帝釈峡スコラ高原クロスカントリ大会	309,000円

来見小学校 3年生と

ヒゴタイを植えました。

6月28日(月)来見小学校3年生の「総合的な学習の時間」にうかがいヒゴタイの苗と一緒に植えました。児童は質問をしながら、協力して一生懸命植えていました。その中で「ヒゴタイはなぜ丸いの？」の質問には職員もタジタジでした。ヒゴタイも子ども達も元気に成長して、きれいな花を咲かせてくれることを願います。



ヒゴタイの苗を植える来見小学校3年生

農業アンケート調査は現在主体となつて農業をされている方と、その後継者の方に回答をお願いしました。現在農業を営まれている方が、「今後耕作できない」と答えられた方が約5割を占めています。それに加え、農業を引き継ぐことを同意している後継者がおり、農業を引き継ぐことに同意している割合は約1割、後継者はいるが、農業を引き継ぐことに同意していない割合は約3割、後継者はいない割合は約5割である。農業引き継ぎに不同意の後継者の同意が得られる取り組みが必要である。

アンケート集計を終えて

後継者がいると回答された方は約1割、「後継者はいるが、農業を引き継ぐことに同意していない」と回答された方は約8割と数や荒廃地が増えています。この結果を踏まえ、地域ぐるみでの対策を

地域ぐるみでの対策を

の農作業に出役できる」と回答された若い世代もいらっしゃるかもしれません。神石協働支援センターでは、買い物アンケート調査結果とあわせて地域の課題を解決できる方策を住民の皆さんと一緒に検討していきます。住まいと考えるまちづくりを、住まいの参画をお願いします。

★★★参加者募集中★★★

★申し込みは神石協働支援センターまで★
☎87-0331

金曜日の 手作りパン教室

開催日： 8月27日
9月24日
10月29日
11月26日
12月24日
時間：13:00~16:00
講師：後藤由紀子先生
参加費：毎回1,000円
定員：先着6名様
持参物：エプロン・三角巾
持ち帰り用容器
マスク

第1回 そぼ打ち講座

開催日：8月20日(金)
時間：19:00~21:00
講師：横山哲美先生
参加費：1,500円
定員：先着8名様
持参物：エプロン・三角巾
マスク

現在 “男の料理教室” 準備中。
男性の皆さん!!
お楽しみに★